

創刊準備号

社会学部報

社会学部報 創刊準備号

【記念対談】 2
間々田孝夫 教授 × 阿部珠理 教授
【社学図鑑】13
社会学部生に聞いてみた
社会学部のイメージ
社会学部のリアル
社会学部のレキシ
国際社会コース
おすすめ授業
【新任教員紹介】 21
石井香世子 准教授
小泉元宏 准教授
和田伸一郎 准教授
【インタビュー】 24
奥村 隆 教授
【2016年度社会学部関連動静】 31
【編集部だより】32







記 念 対 談

阿部珠理教授×間々田孝夫教授 「青春は好奇心、

人生はパッション!」

と間々田孝夫教授。二〇一六年度をもって現代文化学科の専 てこれからの人生について語っていただいた。 任教員を退職されるおふたりの想いとは? いままで、そし 二八年もの歳月を立教大学と共に歩んできた阿部珠理教授

社会学が好きではなかった?

んか。 間々田 や家族社会学、社会学理論などの分野をやられている方々の す。「社会学者らしい社会学者」っていうのは、都市社会学 ―先生方の学生時代についての話から教えていただけませ 僕はあまり社会学者らしい社会学者ではないんで

こと。僕はどっちかっていうと社会心理学に興味があった。

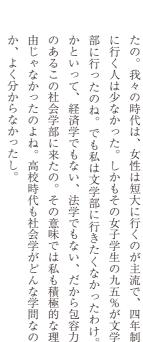
東京大学の文Ⅲに入って、心理学と社会学どっちをやるかっ

2

る学問だからね。学生たちもみんな言うでしょ、なんでもで はそんなに好きではなかった(笑)。まあでも、包容力があ た人間がこんなこというのはなんだけど、じつは当時社会学 なと思って社会学科を選んだだけでね。社会学部長までやっ て悩んだ時に、心理学だと実験中心になるので、それは嫌だ

教には女子学生が一割しかいなかった。圧倒的に男子校だっ 私は立教の社会学部社会学科出身ですけど、当時の立





間々田 結局、今の学生と同じだね (笑)。

消費社会論について

蕳

々田先生といえば消費社会論ですが、ご研究の始まり

は? 卒論で書いたんだけど、その後どう進めたらいいか分から 社会論での成果は二〇年以上ほとんどなかったんですよ。そ でいろんな調査を十何回やったかな。それで手一杯で、消費 識や貯蓄の研究で回り道をして、総務省(旧郵政省) なくてすごい長いブランクがあったのね。その間に、 ど、中でも僕が一番やりたかったのが消費問題だった。まず 間々田 最初から経済社会学をやろうと思っていたんだけ 僕が教えていた一般教育学部っていうのが改組で の仕事 階層意



「じつは当時社会学はそんなに好きではなかった (笑)」

なくなったんです。そこで前から講義をやっていた社会学部

で今日の私があると(笑)。とめられたのが『消費社会論』(有斐閣 二〇〇〇年)。それ入って自分でもいろいろ勉強するわけですよ。それが本にま業を初めて本格的に担当することになった。そうすると力がに移籍することになった。それで、「消費社会論」という授

間々田 ただ、そのころは社会学科所属だったから、ゼミのけれが二○○二年に現代文化学科ができて、内容がさらに細それが二○○二年に現代文化学科ができて、内容がさらに細分化したから、その中で私は消費問題だけを専門にやればいいという立場になったわけね。そこで一段と仕事ができるようになった。大学の先生と一口にいってもいろいろで、なかには講義やゼミと自分の研究を完全に分けている人もいる。には講義やゼミと自分の研究を完全に分けている人もいる。には講義やゼミと自分の研究を完全に分けている人もいる。でも消費の問題一本にしぼることができるようになったんで究も消費の問題一本にしばることができるようになったんでなる。そういう意味では感謝しなきゃいけない。

アメリカ先住民研究との運命的な出会い

ください。 ――アメリカ先住民研究を始めたきっかけについてお聞かせ

礎をつくったの。南部に行って人種差別の、リンチで首を斬どいなかったけど、そこでの体験が、その後の私の人生の基

を見にいきたいといつも思っていた。それで、アメリカに

抗があったのね。だからこの環境から飛び出して、外の世界うふうであるべきだ」みたいな昔ふうの婦女教育にすごい抵かくしつけ教育みたいなのが厳しくてね。「女の子はこうい

一九六九年に行きました。当時、高校で留学した人はほとん

阿部 私は中学・高校ともに女子高だったんだけれど、とに



「外の世界を見にいきたいといつも思っていた」

のような人もいたし。そこで鍛えられた。見たんですよ。素晴らしくリベラルな人もいたし、偏見の塊るなんていうすごい実態も見たし。とにかくいろんな人間を

辞書で引いたのよ。「止揚する」って書いてあったんだけどた。"aufheben"ってドイツ語で書いてあるじゃない。それをた。"aufheben"ってドイツ語で書いてあるじゃない。それをする。英語で一生懸命読んだけれど、ほとんど分かんなかって、一アメリカの学校には社会科学っていう科目があって、一アメリカの学校には社会科学っていう科目があって、一

間々田 今度は国語辞典を引かないといけない。日本語の意味が分からなかったのよ (笑)。

阿部 いやいや、国語辞典引いても分かんない。だって、そ てないのよね。あの時、社会科学を理解する頭の装置が自分 にはないんだってことを嫌というほど実感した。強烈な経験 だったんですよ。アメリカへ留学したことで私の思考力の枠 だったんですよ。アメリカへ留学したことで私の思考力の枠 だったんですよ。アメリカへ留学したことで私の思考力の枠 ろんなことに関心があったけど、でも社会科学に取り組む姿 ろんなことに関心があったけど、でも社会科学に取り組む姿 ろんなことに関心があったけど、でも社会科学に取り組む姿

――やはり、留学経験は必要だと思われますか。

ないと開けないんですよ。いろんな経験をして、違いを知っんじゃないかしら。知の窓っていうのは異質なものと出会わ阿部 そうね。やっぱり異質なものを経験することは大切な

ていくと良いんじゃないかしらね。
ア活動も盛んにやってるでしょう? それを海外にまで広げと思うのよね。立教ってヒューマンな学校だし、ボランティと思うのよね。立教ってヒューマンな学校だし、ボランティまるということは、究極的には平和な世界に貢献することだて、人間理解を深めなきゃいけないですよね。人間理解が深て、人間理解を深めなきゃいけないですよね。人間理解が深

なるほど。では、アメリカ先住民とはそのとき出会った

んですかっ

阿部 いや、そうではなくて、その後、立教の社会学部を卒業して、大学院では社会言語学っていうのをやっていて、社会学と言語学をミックスしたようなものですね。だから、実はアメリカ先住民の研究を始めたのは、比較的遅いんですよ。きっかけは作家の中上健次さんにアメリカで出会ったことです。これは私の人生における最大の出会いなんだけど、その頃、私はUCLAっていう大学に行っていて、中上さんも家族を連れてちょうど近くに住んでいたので、知り合いになったんですよ。というか、私が大ファンでおしかけたっていうだけなんですよ。というか、私が大ファンでおしかけたっていうだけなんですけど(笑)。中上さんは当時とても売れっいうだけなんですけど(笑)。中上さんは当時とても売れっなかったんだけど、ちょうど小さいお子さんが三人いて、「小学校の入学どうすればいい?」なんて相談を受けたので、私学校の入学どうすればいい?」なんて相談を受けたので、私

そしたら、たまたま中上さんがアメリカ先住民の作家と知

がそういう事務手続きを手伝っていたのね

て! り合いになって。その作家が「私の本を日本語にして いたの。 関心はなかったのよ。だからしばらくそのままにして ちは大学院生が一流の作家と一緒に仕事ができるなん 英語ができないから「君やったら?」といわれてね。こっ くれないか」なんて持ち掛けてきたけど、 と思って、「はいやります」と。本当は先住民に 中上さんは

うことで、自分では意図してなかったほうに引っ張ら れていって今があると。 の精神世界』(日本放送出版協会 らすぐ執筆依頼がきて、書いたのが『アメリカ先住民 と思って、そこで初めてインディアン保留地に行った を翻訳するためには彼らの生活をみなきゃ分からない 急いでください」って連絡がきて、やっと翻訳を始めた。 職した年に、アメリカのほうから「版権が切れるから んですよ。私はそれが終わったら辞めるつもりだった。 それでUCLAで学位をとって帰ってきて立教に就 で、結局私が一人で翻訳しました。『セブン・アロー (地湧社 中上さんはその渦中にガンで亡くなってしまっ この本が朝日新聞の書評に載ったのね。それか 一九九二年)という本なんですが、これ 一九九四年)。とい

「最近の学生はおとなしくて良い子なのだけど、 覇気を感じないのよね」

阿部 ですけどね。 そんなわけだから「アメリカ先住民研究の第一人者! 101新書 二〇一〇)って本に書いた話なんだけど、 でもまあ、今となってはそういう運命だったと思うん なんて紹介されるとなんかこう申し訳 数年前に出した『ともいきの思想』(小学館 ない気になる。

間々田

へえ、初めて聞いた話だなあ。

はり学生の気質はかなり違いますか。 お二人が立教の先生になられた頃と今とでは、 Þ

間々田 僕と阿部さんが立教に来た一九八九年は、ちょ

阿部

当時の学生は確かに勉強しなかったですね。池

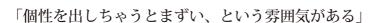
だんだん真面目になってきて、今もその傾向が続いて と、多少は成績が今後に関係するかなと思ったのか、

いるかなという感じはするけどね。

だった。今でもそんなに良いとはいえないけど、 うどバブル真っ盛りで、学生がいちばん勉強しない頃

当時

はいい加減な学生が多かったな。バブル崩壊後になる



阿部 七〇年代のほうがもっと教養あった 間々田阿部さんの理屈でいうと、 学生はおとなしくて良い子なのだけど、覇気を感じな 今の子は試験勉強はちゃんとやるけど、本を読まない たら、昔の学生のほうが高い気がするの。というのは 袋には来るんだけど授業にはまず出ない(笑)。よく遊 いのよね。 か。だから、教養の質が高かったと思います。 んでいるとか本を読まなきゃいけないと思っていると がある。知的関心を持っていて、少なくとも文学を読 でしょ? な感じがしましたよね。だけど、知的なレベルで考え んでたし、よく飲んでたから、社交生活は今より活発 だって「大学生だったらこれは読んでないと」 昔の学生は自分のための勉強をしてた感じ 我々の学生時代、 最近の

という本があったでしょ。年に何冊読めるかみたいな

競争を中学・高校のころだってしましたよ。

無条件に尊敬されてた。それがどんどん屈折してきてる。そ(笑)。我々の頃は、知識があり教養がある人っていうのは、

ルールが難しくなってるような気がする。

れを露骨に出すと嫌なやつみたいになっちゃうし、そういう

阿部 今の学生をみていて思うんだけど、「みんなと同じじゃなきゃいけない」みたいな均質圧力がかかってるよね。それって、すごく気の毒な感じがするわよ。だって本当は同じなはて、すごく気の毒な感じがするわよ。だって本当は同じなはないみたいな、「無言のルール」をつくってる感じがする。その証拠にグループ主義が真っ盛りでしょ。つまりAKB8とかEXILEとか、要するに個じゃないわけ。集団、グルーとかEXILEとか、要するに個じゃないわけ。実出しないことが大切な時代の風潮になっているんだなと思いますね。

はである。いい子になりたがる。
業に入れてしまう。だからそのラインに合わせようとしてが思うんですね。立教生だと、少しがんばればいわゆる一流企思する。

突出しても平気だっていう雰囲気があるって。立教は特にい女の子は、もっと尖がってるっていうわよ。個性があって、阿部 なるほどねえ。これは聞いた話だけど、慶應や上智の

い子ちゃんなんだよね。

い、という雰囲気がある気がする。 間々田 個性がないというよりは、個性を出しちゃうとまず

阿部 だって、自分の個性や実力を持たなくても、みんなちゃうこともなく従順で、適齢期が来たら辞めてくれる。そんないこともなく従順で、適齢期が来たら辞めてくれる。そんないこともなく従順で、適齢期が来たら辞めてくれる。そんないこともなく従順で、適齢期が来たら辞めてくれる。そんないこともなく従順で、適齢期が来たら辞めてくれる。そんない。 だって、自分の個性や実力を持たなくても、みんなちゃ

よ。その時に自分の真価が問われてくるわけでしょ。辞めちゃうでしょ? その後の人生設計どうすんのって話のがよく分かんないわよねえ。だって就職しても三年以内にでも、みんながそういう空気に、乗ってっちゃうっていう

間々田 確かに、だんだん地が出てくるというか、辞めて二間々田 確かに、だんだん地が出てくるというか、辞めて二間女田 確かに、だんだん地が出てくるというか、辞めて二わね。

間々田 阿部さんのいうとおりで、みんなと同じことをして

はそうはならない、それが不思議だよね。いたら生き延びられないはずなんだよね。でも立教生

社会学部生に求められるもの

うか。 ――社会学部の学生にとって必要な素質とは何でしょ

阿部

社会と自分との距離をちゃんと見れるようにな

会学にならない気がします。

と思う。何となく日常生活だけ送ってたらあんまり社

で欲しい。それをどれだけ一生懸命やるかってことだいる世界ではないところに興味を持って首を突っ込ん

間々田 まずは好奇心が強くないとだめだね。自分が



「本当の第一歩は『外のことに関心を持つ』ということ」

るということですよね。例えば、日本人はエビが好きお光の畑を潰してエビ養殖場を作っている。では私たお米の畑を潰してエビ養殖場を作っている。では私たお光の畑を潰してエビ養殖場を作っている。では私たちがエビを食べなくなると、彼らはどうなるか? 要するに、私たちの生活が東南アジアのエビ農家、他のすることが社会学を通して身につけたらいいと思うんですよね。 でもその第一歩っていうのはまさにそのベトナムのことに興味をもたないと始まらないわけだから、本当の第一歩は「外のことに関心を持つ」ということじゃないかな。 ですよね。 そうね。私なんて子どもの頃から何にでも首を突っ込みたがる人だったのよ(笑)。それで自分の人生突っ込みたがる人だったのよ(笑)。それで自分の人生ないかな。

間々田 だから、社会科に興味がないっていうのはだがずいぶん豊かになったと思ってますけどね。おかげさまでいろんなことを勉強させてもらって。

9

構好きだったわけね。ではこんな収穫物が採れる」とかね。僕なんかはそんなの結いと始まらないんじゃないかっていう気がする。「どこの国ていうとそうではないんだけど、最低限社会科的な興味がなめだと思うんですよ。社会科を学ぶことで社会学になるかっめだと思うんですよ。社会科を学ぶことで社会学になるかっ

間々田 それは教養がありすぎる(笑)。 の?"socialization"(社会化)じゃなくて?

阿部 自分はこれまでワーカホリックだったなと思うの。といきたいですね。阿部さんはどうですか。

にかく忙しくバタバタと仕事をしてきたなと。

間々田そのままでいいんじゃないですか。

間々田もうアメリカ先住民研究はやめるんですか。

これからの人生の過ごし方

一ご退職後のご予定をお聞

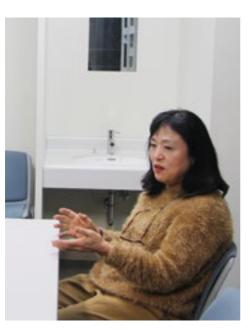
間々田 阿部さんも私もそうです。 でも元気になっていて、三〇年前の六五歳と今の六五歳が同じとはとても思えない。今にとなるべく同じ生活をしたいというのが正直な気持ちたいというのが正直な気持ち

るし、

研究はそのまま続けて

いう観点から、日米交流につが何によって促進されたかと

いて考えるという試みをやっ



阿部 続けたいとは思ってますよ。でもまあ齢を取ると、かんですよ。なかなかストレいんですよ。なかなかストレいんですよ。なかなかストレいのですよ。なかなかストレにずつ明治期の近代化のほうに移しつつあるところです。

ていて、昨年アメリカで本を 留学した人たちっていうのは 留学した人たちっていうのは 戻ってきてから「新帰朝者」っ て呼ばれていたんですけど、 「新帰朝者」と「お雇い外国人」 が日本の近代化の大きなエン がり本の近代化の大きなエン

るんだけど、今までと全く違人はだいたい二通りに分かれ

うことをやろうとする人と、

うかな、と考えたときに、あんまり新しい方向が思いつかなうかな、と考えたときに、あんまり新しい方向が思いつかなこれまでやってきたことを完成させる人。僕はどっちに行こ

わよ (笑)。 阿部 なるべく違うことをやった方が頭は活性化するらしい

いわよ、五年後に全く違うことをやっているかもしれない阿部 まあ、今までの土台がありますからね。でも分かんなる。



もう少し究めたいと思ってるするのね。だから、その道は(笑)。そういえば私、お能を

間々田 へえ。(司会に向かって) ほら、阿部 私こうみえて結構、奥阿部 私こうみえて結構、奥ゆかしいところもあるんですよ (笑)。お花も生けるし、お茶の免状も持ってますし。好きですね、日本の芸能。好きですね、日本の芸能。

みたいに、いろんなことをやってみないと。

立教生へのメッセージ

なかった。授業はたいていサボっていたし(笑)、一応家庭安なんだと思う。僕の学生時代なんか、そもそも手帳が必要ル帳に予定がびっしり書いてあるよね。予定をいれないと不ル帳に予定がびっしり書いてあるよね。予定をいれないと不――最後に立教生へメッセージをお願いします。

う」っていうのが僕からのメッセージですね(笑)。ない。だから、要するに「スケジュール帳を真っ白にしましょると新しいことに興味を向けるゆとりがなくなっちゃうじゃ暇な中でいろんなことを考えるわけだから、予定を埋めすぎ教師のアルバイトはしていたけど、それ以外は真っ白。でも

阿部 私も手帳なんてものを学生時代に持ってなかったわね。だから、毎日が予期せぬことの連続だったんですよ。それが楽しいわけじゃない? 今の子って予期できることじゃないと不安なのね。突然の出来事や偶然の出会いは自分をオープンにすることで得られるのよ。とにかく外に出て、人と会って、異質な体験をするってことがとても大切だと思いと会って、異質な体験をするってことがとても大切だと思いますね。

間々田 そういえば、『消費社会論』で書いた話なんだけど、本人は恵まれてしまったからだんだんと怠けものになるだろう」っていう仮説を立てたわけ。資本主義で栄えたイギリス人がすごくのんびりして怠けものになったと言われていたように、それが先進国に共通の傾向だとされていたの。でも日本人は相変わらず忙しくしている。これは最大の誤算だし、本人は相変わらず忙しくしている。これは最大の誤算だし、本人は相変わらず忙しくしている。これは最大の誤算だし、体が長年社会学者をやってきた中で一番予想がはずれたこと僕が長年社会学者をやってきた中で一番予想がはずれたこと

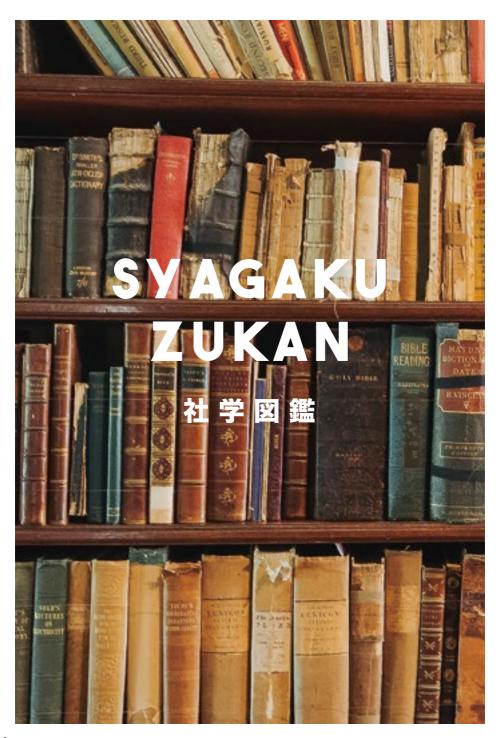
阿部 忙しさは充実だと思ってるんじゃないの?

予定を埋

(笑)。だから、恋愛でもなんでもいいから、とにかく何かに代に、すっごく恋愛にのめり込んでいた友だちもいたわねて、何かにのめりこむっていう経験は大切ですよ。それは若生はパッションよ! 均質にいろんな経験をするんじゃなくあ、そうだ言い忘れてた、パッションよ、パッション。人めることが充実している人生だっていう考えなのね。

(取材・文=杉山奈緒子/編集・構成=向山夏奈)――ありがとうございました。

のめりこんで欲しいですね。







SYAGAKU ZUKAN 03



SYAGAKU ZUKAN **2**



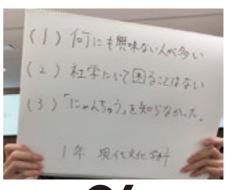
SYAGAKU ZUKAN 05



SYAGAKU ZUKAN 04



SYAGAKU ZUKAN



SYAGAKU ZUKAN 06



社会学科

社会学のキネンって感じ? 他の2学科に比べてふつう。 で真のシャがつ。つほでし 個性豊かな3学科に ワクワク!

syakasyaka

メディア社会学科

☆生も先生も付うすうしてる! 放送研究会の巣窟 授業が大変そう... ※

medisya

現代文化学科

何となく楽しそうな雰囲気シ サブカル然が強い金

gendaibunka



社会学科

歴史と伝統のキング・オブ・社学! 50年以上の歴史を持つ社会学科。 「わからなさ」が溢れる現代社会に 多角的に目を向けることで 社会学を極めることができる。

メディア社会学科

マスコミ関係だけじゃない!

一見、マスコミ志望の学生が多いように思えて、 実はいろんなことを学べるのが メディ社の良いところ。 メディアとは「媒体」の意味。 つまり、ネットも音楽も雑誌も 研究範囲に含まれるのだ! あなたがしたい学問がきっとみつかるはず。



別で感じて真実を確かめよう!
3学科の中で1番フィールドワークに強い。
社会学と文化人類学の両方を学ぶことができる。
アメリカ文化からアニメまで…。
と扱う分野は幅広い。





- ●1947年 文学部社会科設置。
- ●1958年 社会学部(社会学科)開設。
- ●1964年 産業関係学科設置。経営学科と領
- ■1967年 観光学科設置。 現在の観光学部へ。
- 2002年 現代文化学科設置。

★会学科、現代文化学科、 産業関係学科の3学科体制へ。

● 2006年 メディア社会学科設置。

現在の3学科体制の 立ち上がい



国際社会コースとは

グローバル社会で活躍する人材の育成を目指して、2016年度から新たに「国際社会 コース」が開設されました。学部英語科目を中心に編成されたコースで、社会学部3 学科の下に横断的に広がっています。I 学年各学科I5名、計45名で構成し、2年次コー スを選択します(ただし「国際社会コース入試」を経て入学した学生は、入学時点でコー ス選択が決定しています)。英語で社会学を学ぶことを通じて、グローバルな視点で 日本と海外の社会と文化を理解することで、地球社会で活躍する人材を育てます。

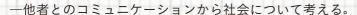
開講授業 ※一部を除き、国際社会コースを選択しない学生も履修できます。

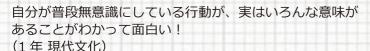
- Reading Sociology in English ▷ゼミ形式で社会学を学ぶ。
- Introduction to Sociology ▷討論や口頭発表を行い社会学を切り拓く。
- Lecture&Discussion on Sociology ▷社会的・文化的なテーマとして討論を重ねる。
- Writing Academic English ▽本格的な学術論文を執筆する。
- Study of Contemporary Society ▷「現代社会研究」。講義形式の授業。



● 社会学科

「自己と他者の社会学」 奥村 隆 教授





●現代文化学科

「流行論」 渡辺明日香 兼任講師

一ファッションと流行の歴史について学ぶ。

元々ファッションに興味があって受講しました。 映画などの映像資料を通して学べてとても楽しかったです。 (2 年 現代文化)

●メディア社会学科

「メディア理論」田辺龍 兼任講師

一応用的なアプローチでメディアを探る。

メディ社の人であれば受けておくべき授業だと思う。 特にメディアが作る「現実(リアリティ)」と「擬似」の話が面白かった。 (4年 メディア社会)



香世子 准教授

ちになろうとしないの?」と親しくなっ

ない。「どうして欧米人は私たちと友だ ろうとしても、なぜか会話にうまく入れ

たスイス人の学生に聞いてみると、「日

原因になることもあるー

言葉に

同じ人種でも、

経済力の違いが差別の 先輩の

石井

留学経験がもたらしたもの

子どもの頃の夢にあるという。 世界に目を向けるようになった原点は、 現代アジアのグローバリゼーションだ。 石井先生のご専門は世界の移民問題や

「世界中に友達を作りたいと思ってました」

現に向けて中学で短期留学、高校ではイ 子どもの頃の夢はパイロット。 夢の実

社会学へと舵を切る。

社会学との出会い

る」というニュアンスを感じたという。

の「常識」だけではない「有色人種であ いう言葉に、単なるふる舞い方や考え方

は政治学として「人種差別」について学 先輩から言われたある言葉がきっかけで 慶應義塾大学総合政策学部に入学。最初 ぼうと考えていたが、大学二年のときに 欧米人と日本人の間にある「見えない の正体を探りたい。そんな想いから

> じゃない?」 ど、アジアの発展途上国に行ったら今度 はそちらの人たちのことを馬鹿にするん ⁻君は人種の違いにこだわっているけ

ざ現地の学生とコミュニケーションを取 ギリスへの長期留学を経験。しかし、い

多層的だった。でもそれを説明できるよ 思っていた以上に、差別の問題は複雑で よる格差が存在する状況だった。「私が に、貧しい国のなかでさえ所得や出自に は、先進国対発展途上国という問題以前 うになりたい」。 国をめぐる旅に出かける。そこで見たの はそんな意味が込められていた。 それなら、と石井先生は東南アジア諸

石井先生はこの時の "common sense" と

本人は international common sense がな

いから、孤立しているんだ」と言われた。

ちに『あ、これ社会学なんだ』って気づ に関する授業を受けるようになっていっ た。一特に意識はしていなくて、そのう いたんです」。 (取材・文=新井紫乃/編集・ 大学では自然と民族性(エスニシティ) 構成=向

山夏奈



小泉 元宏 准教授

社会とアートの共通点

築き上げていく様子を研究するのは面白

すね。役割を持つ人たちが一つの社会を

人の関係ってそれとすごく似ているんで

が役割を持っているんだけど、社会と個 えばオーケストラやバンドは、それぞれ 者を務めていた経験が大きいという。「例 大学時代にオーケストラや吹奏楽で指揮

社会学の世界へ足を踏み入れたのは、

芸術社会学に興味を持ったきっかけ

生生活のヒントについてお話を伺った。 レギュラーな経験や研究内容、そして学 葉植物が置かれている。 れた。明るい木目調のテーブルの上に観 ますか」と温かいカフェオレを出してく てだ。研究室を訪ねると、「なにか飲み などの芸術・文化と社会との関係性につ に囲まれた研究室でご自身のすこしイ 小泉先生のご専門は美術・音楽・映像 色とりどりのも

> 卒業したのち、東京芸術大学の大学院で 「アートと社会の関係性」についての研 究を始めることになる。 いんじゃないかなって」。 こうして、国際基督教大学教養学部を

予想外の学生生活を

生だが、じつは紆余曲折な人生を送って メガネをかけた柔らかい印象の小泉先

> つかない姿だったそうだ。 ましたよ」。その当時は真っ黒に日焼け ていました。ライフセーバーもやってい きたそうだ。「高校卒業後二年ほど働 し、髪はなんと金色! 今からは想像も

と思ってしまったら失敗」なのだそうだ。 問に思い、伺ってみると「大学は『自分 文=船津晃一朗 ませていくことが大切ですよ」。メガネ げたりと、未知のジャンルにも積極的に を組んだり、 生活というのは「四年生になったときに と語ってくれた。先生いわく理想の学生 分の視野の狭さに気づく場だから、かな」 先生はなぜ進学を決意したのか。ふと疑 の奥の瞳が、好奇心で輝いていた。 触れたという。「そうやって経験を膨ら の見たいもの』以外を見る、もしくは自 ああ、思い通りの学生生活だったな 先生自身、オーケストラ以外にバンド 大学の外で様々な経験をしてきた小泉 映画製作サークルを立ち上 /編集·構成 = 向山夏奈

新任教員紹介 そ の ③



伸一郎 准教授

ニーチェに心酔した学生時代

いう。

覚醒させたようだ。

ニーチェ譲りのアバンギャルドな一面も

和田

ニーチェに導かれて……

0 壁を壊すものに惹かれるのかもしれな た。「彼はヒーローですよ」。和田先生は 「ガーディアン」 省)告発したスノーデン事件を報じた英 研究室には米 NSA(国家安全保障 紙の記事が飾ってあっ

業に通底する起業家精神についてまで、 情報社会論ではメディアから政治経 さらにはシリコンバレーのテック企

> て、 ことになるニーチェだった。「ものすご したのは、近代を代表する文芸批評家の 学商学部に入学する。それでも読書熱は だが本心の文学部ではなく、関西学院大 であったが、就職はせずに神戸市外国語 過去の哲学者たちを批判しまくってい 出会ったのが、後に大きな影響を与える 小林秀雄だ。その著作を読み漁るうちに 冷めず、商学部の勉強もそこそこに熱中 大学大学院外国語学研究科に進む いエネルギッシュで、とにかくバンバン 高校時代は文学少年だった和田先生。 面白かった」。時代はバブル絶頂期

紆余曲折な院生時代

苦労の末に入学した神戸外大だった

く。そのルーツは意外にも哲学にあると ざくざくとボーダーレスに横断してい が、研究職の厳しさを諭されたことから にも声をかけてもらえなかった(笑)」と、 広がったそうだ。「髪を緑色に染めたり けど、その頭で学会の発表に行ったら誰 してました。失敗してそうなったんです 直す。京大での日々は刺激的で、視野が 一念発起、改めて京都大学大学院に入り

代半ばで中部大学に職が決まり、 きや、卒業後はアルバイトを継続して でかい賞状があるんですけど、破ったろ 行っていたという。「その時は博士号の ている博士号をわずか三年で取得。いよ 勤務。二〇一六年度から現職につく。 かなって (笑)」。 いよ素晴らしき研究職の道へ! 取材・文=船津晃一 そして、通常五~六年かかると言われ 苦労人な和田先生だが、その後、 朗 編集・ と思い 九年間 Ξ0

向山夏奈

▽▽インタビュー

社会学部 社会学科

|最短距離で行こうとする人たちを壊して、 遠回りさせたいって思った」

学院大学へ移ることが決まった。巻末インタビューでは、それ 学部の教授を務めた奥村隆教授が二〇一六年度をもって、関西 まで語られてこなかった教授の今までとこれからにせまる。 ― 出会いがあれば、別れがある。立教大学で十四年間、社会

> 講師・助教授を経て、 助手、千葉大学文学部 位取得退学。博士(社 会学研究科博士課程単 れ。東京大学大学院社 の社会学、社会学理論。 職。専攻はコミュニケー 会学)。東京大学文学部 |〇〇三年四月より現 一九六一年徳島県生ま

おくむら・たかし

立教大学社会学部教授。

社会学という道具で <私>であるということを透明に描きたい

えてください。 ――まず、研究している分野について教

嫌な人かというのを一生懸命書いたんで イドが高いんですよね。本当に嫌なくら と出来ないんですよ。あと、僕はプラ が何も考えずに出来ることが、考えない す。コミュニケーションというものがす 社会学』(日本評論社 一九九八)とい 者といる技法――コミュニケーションの ごく苦手というか、全然ダメ。普通の人 には理由があります。僕は人が怖いんで う本がその最初ですが、これを書いたの ことに対応しています。一つ目のテーマ い。それで『他者といる技法』(日本評 はコミュニケーションの社会学です。『他 会学」と「社会学原論」を長く担当して いますが、この二つが僕の研究している 僕は授業科目として「自己と他者の社 一九九八)には自分がどれくらい

うやっているな」っていうのを見えるよ で宣言した、『反コミュニケーション』(弘 ミュニケーションが嫌いだ」と本の冒頭 えればと思っています。これは「私はコ うにする。あとはそれを読む人が今度は すること、それを言葉にして「自分はこ 他人と一緒にいてコミュニケーションを ていること、<私>であるということ、 ます。社会学という道具で、自分のやっ もある。僕は自由になる方が多いと思い とがあるけど、同時に自由になるところ なったり、わざとらしくなったりするこ るようにすると、かえってぎこちなく た。自分がやっていることを自分で見え きるだけ透明に言葉にしたいと思いまし なふうに考えているかっていうのを、で 文章は、すべて私の自画像である」と書 いてあるんですが、とにかく自分はどん 「自分はどうなんだろう」と考えるヒン 素材を、自分の道具箱に入れてもら

> 出版 ち、願いのようなものだったと思います。 葉をふつうの世界でも使えるようにした そんなふうにエッジの立った社会学の言 では見えないことを見えるようにするも 学問の言葉っていうのは、ふだん使わな の成果は『社会学の歴史Ⅰ―― 社会と 三〇代から考えていることで、現段階で は『社会学になにができるか』(八千代 ということを改めて考え直すこと。これ す。二つ目のテーマは、社会学ってどん 文堂 二〇一三)に引き継がれた仕事で 言葉とか、カタカナの言葉とかを使う。 のだと思う。だからわざとらしく難しい いぐらい厳密に定義することで、ふつう いう謎の系譜』(有斐閣 二〇一四)です。 な学問なのか、どんな考え方をするのか、 いというのが、僕の若いときからの気持 一九九七)という編著をつくった

すね。

あとがきに「この本に書かれたこ

すか。

とは、すべて私自身である。ここにある

「狭い世界ってしんどいな」

―学生時代のことを話していただけま

優秀な子どもたちばかりで、その中に徳 りました。そしたら周りは大阪や神戸の だったり親戚だったりして、「狭い世界っ 入るところなのね。勉強するには良かっ 通ったんですけど、これは国立で受験で 二 (笑)。中学校は徳島大学附属中学に 学生のときは太っていて運動神経が鈍 島から来て、端っこにいる感じが強か 勤で京都に引っ越し、神戸の灘高校に入 てしんどいな」 って息苦しさがあった たけど、田舎なので親たちが知り合 く、通信簿は全部五で体育だけずーっと 強しかしていなかった子どもでした。小 ほぼ徳島にいました。すごい田舎で、勉 をやりたくて文Ⅲに入り、文学部の社会 に行く人が多いんだけど、僕は社会学 た。灘高校の人は東大の医学部と法学部 んですよね。高校にあがる時に父親の転 僕は徳島県で生まれて、中学卒業まで

育って文学部に入ろうとする人たちは、学専攻に進んだ。大学に入ると、東京で

端っこにいるという気持ちをずっと持った。ここにいるとか、そういうことをいっぱい吸収して育っているなっていうのを感じましたし、「これは僕には無理だ、道じましたし、「これは僕には無理だ、道がましかやってきてない人だっていうめ強しかやってきてない人だっていっぱいはいきりあって、学問の世界では勉強することよりも本を読むとか芝居や映画を観るとか、そういうことをいっぱいるという気持ちをずっと持つ

社会学は「精神の自由」をもっている

ています。

て「それはおかしいんじゃないか」、「そ

一一立教大学の学生にはどんな印象を もっていますか。僕は一四年前、二○○三年に立教大学 に来ました。それまで一一年間は千葉大 学に勤めていました。立教に移ってはっ 学に勤めていました。立教に移ってはっ く違うこと。どちらもよくできる。けど、 く違うこと。どちらもよくできる。けど、

む。

留年する学生も多いし、

遠回りする

をしないようにどれが最短の道を行くことに対し で育ってきたっていう人が典型だと思う んですよね。すごくスマートで、遠回り をしないようにどれが最短の道かという のを探すのが得意だと思う。「努力しな いでも上手くいくじゃん」って感じもあ る。でもそれはとてももったいない。 社会学は、最短の道を行くことに対し

人がいて、いろんな人に出会える。社会ということを考える学問だと思う。だから、僕は立教に来た時に、最短距離で行ら、僕は立教に来た時に、最短距離で行ら、では立教に来た時に、最短距離で行いって思ったんです。大学っていろんな

話してもらう。立教の社会学部の学生室に戻ってきて見てきたことをそれぞれようなものだと思う。遠回りして、誰かと会って全然知らない世界を知って、教と会って全然知らない世界を知って、誰かけば、かん出て行くための港や基地の

はいかに努力しないと守れないものなの それを学生のみんなに身に着けてほしい 社会学は社会学でないと思うんですよ 僕のゼミには壊されたいヘンタイが来る がそうしたいわけじゃないと思うけど、 があるってずっと思っています。みんな は、そうやって遠回りして戻ってくる力 うことも、最近強く感じています。 と思ってきました。そして「精神の自由 由」をもっている。それがなくなったら 足で立つことが出来るような「精神の自 と、社会学は自分の頭で考えて、自分の できて毎年楽しいです (笑)。 話を戻す んですよね(笑)。その中からヘンタイ か、どれほど簡単に崩れてしまうかとい な順に選んでいくと、素晴らしいゼミが

生まれ変わるとしたら、

女性になりたいです!(笑)

る学者の中で、もし生まれ変わるとした――『反コミュニケーション』に登場す

ら誰がいいですか。

も仲良く話してたりしますよね。男は所

この中でも僕が好きな人とそれほどでもない人といえば、やっぱりゴフマン。あとは人といえば、やっぱりゴフマン。あとはれ変わりたいかって言われると、なんかれ変わりたいかって言われると、なんか困るところがあります。ただ、この本には明らかに欠けているところがあるんでは明らかに欠けているところがあるんですよ。それは女性が登場しないことです。では最後に学生の「Aさん」が登場ン」には最後に学生の「Aさん」が登場ン」には最後に学生の「Aさん」が登場するんだけど、あとは全員男性じゃないかな。

たら、女性になりたいです!(笑)

――見田宗介先生の授業は受けたことが

簡単に言ってはいけないことだけど、 男性の人との関わり方と女性の人との関 わり方ってまるで違うところがあると思 います。例えば、おじさんの話を聞いて みると、基本的に自慢と仕事の話。自慢 と仕事を除いたら、おじさんは喋ること と仕事を除いたら、おじさんは喋ること

と思います。なので、生まれ変わるとしと思います。なので、生まれ変わるとした女性ができないことってたくさん あると思うんですよね。そうした女性の コミュニケーションについて全く書かれていない。それがこの本の大きな欠点だ

に出たんだけど、見田先生は文Ⅰ・文Ⅱの社会学原論みたいな社会学入門の授業があったんですね。僕は文Ⅲに入って、業があったんですね。僕は文Ⅲに入って、

國男の花の話とかね。花が咲きますよね。向けの社会学を担当してたと思う。それ向けの社会学を担当してたと思う。それは文Ⅲの学生には履修できない授業だっの授業に潜って一年間出てた。その時は本当にびっくりしました。別えば、柳田本当にびっくりしました。別えば、柳田本当にびっくりしました。別えば、柳田本当にびっくりしました。

てしまうから。だから、講義に潜ったく はとても敵わないというか、この人の近 だけど、そういう考えたこともないよう て。それが色鮮やかに咲いていることか 「ハナ」という日本語ができてるんですっ 界から生えてきて、 界のはじっこ」って意味なんですよ。美 「ハナ」って言いますよね。「ハナ」は 花という言葉は例えば鼻もそうだし端も がいかにダメかっていうのがよく分かっ くにはいられないと思いまし た。自分 びっくりしてしまった。ただ、この人に 立てられていましたが、どちらも本当に の本と、この二つで一年間の講義が組み 真木悠介(見田先生のペンネーム)名義 存立構造』(筑摩書房 一九七七)って はいま言ったような話と、『現代社会の しい花が咲くっていうのが、全然別の世 いうマルクスの『資本論』をもとにした な話を見田先生はするんです。この授業 ら「色彩感覚の近代」を柳田は論じるん に現れる、そのはじっこっていう意味で、 別の世界がこの世界

らいで、見田先生からちゃんと学んだという感じではないんです。 つい先日『作いう感じではないんですが、これは京という編著を出したんですが、これは京を対けする本で、九人の研究グループ学を対比する本で、九人の研究グループ学を対比する本で、九人の研究グループで書いたものです。自分がこんな本をつくるなんて思ってもみなかったし、自分が書いた章では見田先生を批判しているんですけど、そんなことができるとも思いもしなかった。そのまえに『現代思想』の「見田宗介=真木悠介」特集号にも見いもしなかった。そのまえに『現代思想』の「見田宗介=真木悠介」特集号にも見いるないで、えんですが、それはとても嬉しかったです。

「学問」に所属するもの学者というのは「大学」ではなく

えていますか。 ---二〇一七年春から関西学院大学に移

> ずれたものを生み出す力があったのか でやるのとは違う、異化効果というか、 持って東で学問をやってきたことだと思 メリットがあるとしたら、西の感覚を あるっていう感じがするんです。それに てきた。そういう二つの層が自分の中に か、東京のメッキがどんどん分厚くなっ の上に三六年分のメッキがあるという のルーツは関西だと思うんですよね。そ 語で喋ってるんですけど、やっぱり自分 に来て、いま五四歳なので東京に三六年 で四国と関西で暮らして、一八歳で東京 思うことがあります。高校を卒業するま います。東の人が東でやる、西の人が西 いることになるんですよね。今日は標準 立教に十四年間いて、やはりいろいろ

気がしています。もう一つ感じているの気がしています。もう一つ感じているのかもしれない。新しい結びつけ方、違のかもしれない。新しい結びつけ方、違ずれたものを生み出す力があったのかずれたものを生み出す力があったのかずれたものを生み出す力があったのかずれたものを生み出す力があったのか



ます。

たのは、やっぱり学者というのは「大学」あと、今回移ることになって強く思っ

は、自由になったなということですね。

「社会学者」なんです。学問という軸が 学の人というのがメインになってしまう またま」を感受する力・受け止める力と、 のが本当です。その「たまたま」が学問 ミュニケーションの社会学」と「社会学 質問への答えでは、さも理由があって「コ はあんまり考えていないんです。最初の から具体的に何をするかっていうと、実 がいまはあります。じゃあそれで、これ 方をしているんですけど、そういう実感 よく「共同体の外に立つ」っていう言い あるから一人で立っていられる。最近は のは二番目以降で、まず最初にくるのは 立教大学の人とか、関西学院の人という と「学者」ではなくなるんじゃないかな。 ま○○大学に勤めているけど、○○大 属するものだということです。たまた に所属するのではなくて、「学問」に所 0 (笑)。たまたまやることになったという にお話しましたけど、あれはすべてウソ の歴史」というのをやっているかのよう 面白さなんではないかと思います。「た

> 出会いに開かれていることが全てにおい なんて、ほんのちょっとです。その出会 分がやろうと思って成り立っていること よって成り立っていると思い ます。自 げさに言うと人生もそうですけど、基本 それを手放さないで考え続ける力という て大事な気がしています。 的にはほぼ全てが、たまたまの出会いに のがほんとうに大切だと思うんです。大 いに対して真剣で、誠実であるというか、

社会学部は、予想外の他者と出会う場所

ぞれ船で旅をする。大学という港が無け なって思います。さっき話したように ういうふうになったらいいんじゃないか どんなことでも話してください。 れば、航海できなかったような遠いとこ 大学が基地や港となって、みんながそれ の他者と出会うチャンスが生まれる、そ この大学・学部にいることで、予想外 立教大学社会学部の今後について、

向山夏奈

П

きたら、とても面白いと思うし、先生た 科の人が斜めにうまくつながることがで 学科だけじゃなくて、いろんな学年・学 とお互いに出会ってほしい。同じ学年・ というのが、社会学部が他の学部と違っ に会う。「他者」と出会うことができる 会いがある、 わないと、絶対新しいものは生まれない になると思うんです。 部の中に生まれれば、すごく面白いこと ちを巻き込んで授業の関係とはまた違っ は学部の中でもそうで、学生同士がもっ てできることなのかなと思います。それ ろまで旅をして、会うことがなかった人 であり続けてほしいな、と思います。 ので。この学部が、そういう予想外の出 た、新しい関係、新しい出会いがこの学 ――どうもありがとうございました。 (取材・文=宮崎紗矢香/編集・構成 新しいものが生まれる場 異質なものが出

奥村隆教授ってこんな人。ゼミ生に聞いた!

社会学科四年 松尾浩平さん

奥村ゼミを選んだ理由

奥村ゼミは立教のゼミの中で一番やりたい放題できるというのを噂で聞いていたい放題できるというのを噂で聞いていたい放題できるというのを噂で聞いていたいない。ある意味テキトーなところがあったな、ある意味テキトーなところがあったがなと。

ゼミ中の奥村教授

中の発表では、人一倍笑ってくれます。ているのがいつもの感じですね。ゼミのひじをつきながら「ふーん」って聞い

です。奥村先生はもともと関西の人だかの研究内容について促してくださる感じがださっているのかなと。一回学生に投げて答えが返ってこなかったら、その人がさって雰囲気を盛り上げようとして

奥村教授曰く、ヘンタイが多いそうですが

言ってて、みんな苦笑いみたいな(笑)。るんですね。スベるようなことも普通にら、やたら面白おかしくしようとしてく

ない」っていう卒論を書いている人です女子なのにひたすら男子の筋肉について女子なのにひたすら男子の筋肉についてインタビューしている人とか。あと一番インタビューしている人とからあと一番インタビューしている人とからない。

奥村先生があえて考え方がズレてる人をカウンター席の所でおじさんがしゃべった (笑)。着眼点が変な人が多いですね。た (笑)。着眼点が変な人が多いですね。

集めてるからかも (笑)。

奥村ゼミで学んだこと

(何でもない問いをどのように組み立て一つの論にするか、という論理的思考 方が身に付いた気がします。論文は人に 方が身に付いた気がします。論文は人に たせないようにどう伝えるべきかとか。 らせないようにどう伝えるべきかとか。

奥村教授へ一言

お身体にはお気をつけ下さい。
せミに入れてくださってありがとうございました。おかげで、視野が広がったの一部の中でこんな狂った仲間と時間をの一部の中でこんな狂った仲間と時間をの一部の中でこんな狂ったけがとうご

二〇一六年度 社会学部関連動静

【活躍された卒業生】

会陸上競技部女子コーチ、ビックカメラ所属)リオデジャ ネイロ オリンピック二〇一六 女子二〇キロ競歩日本代表 岡田久美子さん(二〇一四年社会学部現代文化学科卒、体育

選出、出場(一六位)

学部事務二課 社会学部担当】

奥真由佳さん (十月末退職)

渡邊未来さん(八月末退職)

佐々木暢也さん

黄典子さん(十一月一日付着任)

花塚奈津美さん(九月一日付着任)

山嵜浩子さん(六月一日付人事異動)

谷川暁子さん(六月一日付社会学部担当に着任

今田晶子さん

【キャリアサポーター】

藤野智子さん 【社会学部受付】

井田かおるさん

岩間宣卓さん

【教務事務センター

社会学部担当

澤村亜生津さん

後藤貴志さん (二〇一六年十月一日付 社会学部担当に着任)

*社会学部へのサポートに感謝いたします!

編集部だより

【プレ創刊の辞】

なかったことが、心のどこかで引っか

一番大変だったのはインタビューの文字一番大変だったのはインタビューの文字一番大変だったのはインタビューの文字ク時と重なっていたのですが…その時のことは恐ろしくて思い出すことができません(笑)。今回は創刊準備号という形せん(笑)。今回は創刊準備号という形になりますが、二〇一七年度から本格的になりますが、二〇一七年度から後輩たちが作った社会学部報を読めから後輩たちが作った社会学部報を読めから後輩たちが作った社会学部報を読めから後輩たちが作っています。(新井)

【編集長だより】

中でメディ社生らしいことを何一つでき参加したいと思いました。この四年間のでメンバー募集の情報を聞きつけ、ぜひ残った単位を取得するだけ、という状況残った単位を取得するだけ、という状況

【編集作業を終えて】

れた。そして、そんな「自由」に私はどあるものではないだろうか。奥村教授のあるものではないだろうか。奥村教授のとなりには進んで、途方もない道の先にも返しては進んで、途方もない道の先にも返しては進んで、

の経験を活かして頑張りたい。(松尾) こか励まされたのだった。(宮崎)/こ れからの大学生活について考えるとても れからの大学生活について考えるとても に自分の目標に向かって頑張りたい。(吉 田)/雑誌編集に関わってみたいという 軽い気持ちで参加したが、約半年間で多 くのことを得られた。まだ知識も実力も と自ていないが、二〇一七年度からもこ とりていないが、二〇一七年度からもこ

【編集部員募集!】

『社会学部報』は、学生による学生のための新しいメディアです。編集部員をための新しいメディアです。編集、デザイン、ライティング、写真など、関わイン、ライティング、写真など、関わがある社会学部生は koike-toiawase@がある社会学部生は koike-toiawase@がある社会学部を

社会学部報 創刊準備号

2017年3月1日

編集長 新井紫乃

取材 杉山奈緒子

船津晃一朗 松尾さくら 宮崎紗矢香 吉田彩乃

制作管理 向山夏奈

アートディレクター 橋爪萌

印刷 望月印刷株式会社

〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1 立教大学社会学部

学部報編集委員会 監修



〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1